NPO Srolanh Project vol.20

Srolanh NEWS

カンボジアの障がいのある子どもたちの「生きる」を支援する。

発行：NPO 法人スロラニュプロジェクト
〒655-0049
神戸市垂水区狩口台 4 丁目 31-505
TEL：090-9982-4032
Email：srolanhproject@gmail.com

チョムリアップスォ！～飯塚代表ごあいさつ～

春の訪れが感じられる時期になりました。皆様、お元気でしょうか？

当団体もコロナ禍により、定例の現地活動に制限を余儀なくされてきた 2 年間です。昨年は夏に、メンバーの服部が急きょシェムリアップに飛び、短期間ではありましたが、スロラニュ小学校、シェムリアップ孤児院センター、ワットボー小学校、そして、もちろん村の障害のある子どもたちの所へ久しぶりのご挨拶に行くことが出来ました。皆さん暖かくそして久しぶりの再会に喜んでいただいたと聞いています。しかしながら、この活動がパンナさんとの最後になりました。諸事情があり長年スロラニュプロジェクトを支えてくれた彼が、現地スタッフをやめることになりました。大変残念でしたが、健康のこともありましたので、感謝の中お別れしました。その時は、スロラニュプロジェクトの継続は難しいかな？と悩みましたが、直後、日本人の男性から、現地活動を手伝いたいとのお申し出がありました。

すぐに西宮でお会いしました。私と同じく、長年障害児者支援をされてこられ、本当に謙虚でそれでいて熱い思いを伺い、すぐに現地活動をお願いしました。あまりにもタイミングが良すぎて、本当に驚きと嬉しさで胸がいっぱいになりました。

その幸運の神様は近藤さんと言われます。

昨年 10 月から現地のピッチさんと一緒に、支援活動を継続してくださっています。近藤さんのお蔭で、日本の医師や、大学生を巻き込んでくださり、さらに子どもたちにとって、より良い支援が提供できています。今年は、私たちも、現地に行きさらに支援の向上を目指します。暖かく見守り続けてくださっている皆様、カンボジアの貧困や障害対策の現状を鑑みた上での、当団体のアクションをしっかり考え、ご期待に添えるように頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

2019 年セイハー君におもちゃを寄贈する飯塚代表

最後に、コロナ禍により、ご寄付や賛助会員様の減少など運営資金が激減しています。ぜひ、ご支援をお願いしたくよろしくお願いいたします。

カンボジアで「より豊かに生きるための支援」を！～現地スタッフからの報告～

2023 年 3 月現在のセイハー君

昨年 9 月末で、長年勤めた大阪の社会福祉法人を退職し、10 月より、ここシェムリアップで、スロラニュプロジェクトの活動のお手伝いをさせていただいております、近藤です。

わずか数か月の活動の中ではありますが、何ら、社会保障の仕組みが無いない中で、あるいは社会の理解が無い中で、孤立し、困窮するカンボジアの障がい当事者、ご家族のみなさんが置かれる過酷な状況を目の当たりにしてきました。

学校にすら通うことがかなわず、社会との接点が全くない中、孤立する当事者、ご家族。重度のてんかんがあるにもかかわらず、医療へのアクセスが困難なため、あるいは通院歴はあるもの診断さえつかず、度重なるなる発作に苦しむ子どもたち、不安を募らせるご家族。生まれてから 16 年間、お家の軒下の縁台から、一歩も外に出たことのない脳性麻痺の女の子。お父様が白内症による失明で働けず、現金収入が無い中、貧困と重い介護負担に苦しむお母様。日本の物差しで考えてはいけない事を含め、相当の覚悟を持って臨んだつもりでしたが、カンボジアの障がい当事者、ご家族を取り巻く過酷さは、その想像を超えるものであり、打ちひしがれる思いがつのります。

恐らく、その状況は、スロラニュプロジェクトが活動を始めた 10 数年前と何ら変わっていないと考えます。しかしながら、だからこそ、彼ら、彼女らに出会うためにここに来たのだと、決意を改める次第です。

現在のところは、これまでのスロラニュの活動を引き継ぐ形での、支援している世帯への食糧支援や、ご家族の介護負担軽減や保清のための紙おむつ等の衛生用品等の現物支援等、「生きるための支援」が中心となりますが、今後様々なリサーチを進めつつ、近い将来には「より豊かに生きるための支援」を構築していくことを夢見ております。そこには、私たちが学んできた、日本の障がい当事者、支援者が築き上げてきた歴史や教訓が、必ずや生かせるものと確信しています。

近藤さん

スロラニュの活動を通じて～ボランティア山本杏夢さんからのメッセージ～

スロラニュの活動に参加した
山本杏夢さん（左）

私は今回、2 回目のカンボジアで初めて、教育、生活等障がい児、者の現状を肌で感じることになりました。それは色んな意味で「予想外」の連続でした。

スロラニュの飯塚さんや近藤さんが支援を続けてくださっているからだとは思いますが、現状は思っていたより過酷ではない、というのが初めの印象です。経済的に困窮している家庭もありますが、カンボジアの農村部は周りに親戚が多く集まっていることが多いため、皆支え合って暮らしています。様々な NPO 法人や団体がサポートを広げ、10 年前や 5 年前のカンボジアとは明らかに変わってきているのは確かです。日本で思いを巡らすだけでなく、実際に自分の目で見て確かめることの重要性を感じた瞬間でした。

一方で、まだまだ改善されるべきところも山程あります。課程主義のカンボジアの学校制度では、障害のある児童はいつまで経っても進級できず、いずれ学校に行かなくなることや、精密な脳の検査をするためのお金も環境もないため、未だに一日に何回もてんかん発作が起こったりすること。また、生まれてから今まで、家から一歩も出たことがないことや、壮絶な過去をもつ孤児院の子どもたちの現状などが見えてきました。

カンボジアに来て最も心が動揺した出来事があります。それは、私が来る数週間前に容体が急変し亡くなった S くん宅に、支援を一旦終了することを伝えに行ったときのことです。初めて会った私のことも、快い目で迎えてくれるお母さん。初めは伏し目がちでもはっきり話していた目に、見る見るうちに涙が溜まり、こぼれ落ちるのを見て、胸がぎゅーっとなって涙が止まりませんでした。「子を思う母の愛」を痺れるほど全身に感じました。子を思う気持ちはカンボジアでも日本でも、どこの国でも変わらない。けれども、カンボジアにいると、「死」というのが日本よりもずっと近くに感じるのです。

「幸せ」について考えさせてくれるのもカンボジアで、初めて家庭訪問に伺ったときから、どの家庭も S くんのお母さんと同じ快い目で迎えてくれて、陽気で明るくて、障害のあるわが子に対しても比較的前向きな人が多いのです。子どもはもっと明るくて。カンボジアの人が大好きなんです。元気と愛を与えるつもりが、逆に元気と愛と、幸せをもらう毎日です。笑顔がキラキラと輝くこの子たちの未来を考えたとき、両親が亡くなったらどうするのだろうと思い、近藤さんに質問してみたことがあります。「それは分からない。酷なことやけど、その年齢まで生きられない現状もある。」、そう言われたとき、S くんのことが頭をよぎって、はっとしました。今家庭訪問に回っている子たちの笑顔が、次々と脳裏に浮かびました。

また、別の人は、こう仰っていました。「僕らは、カンボジアの未来を歩んでいるようなものなんだ。だから、その上で何が出来るのか、考えなくちゃいけない」、日本と同じように発展するのが、必ずしも正解ではないということです。私は、日本で息苦しく感じるときがあって、カンボジアで心が安らぐときがあります。スロラニュの活動で村の人たちと接するたびに、その思いは増しています。今のカンボジアが好きだなって。けれども、初めに綴ったように、カンボジアは今、大きく変わろうとしている。今はないに等しい障害児教育も、これから確立されようとしているからこそ、日本から学び、カンボジアの良さを生かしたやり方はどんなふうなものか、考えていく必要があると思うようになりました。

私が今回スロラニュの活動に参加させていただけるのも、あと一ヶ月となりました。今の私にできることは微力で、それはひょっとしなくてもそのとき限りのものかもしれない。けれど、直接何度も会って、心と心で会話したからこそ感じたことや、その子のためにしたいと思ったことを少しずつ形にしていきます。それが、これから学校に行ける機会ができたとき、働ける機会ができた時、好きなスポーツをする機会ができた時、前向きに考えられるきっかけになるかもしれないと思うからです。

支援活動へのご協力のお願い

【郵便振替】加盟者名：特定非営利活動法人スロラニュプロジェクト
口座記号番号：00980-1-172480

【銀行振込】
みなと銀行　支店：明舞支店（普）
口座名：特定非営利活動法人スロラニュプロジェクト理事長飯塚由美子
口座番号：3895462
※恐れ入りますが、手数料についてはご負担お願いいたします。